

# 第5章 地域別方針

1. 市街地中心地域
2. 市街地東部地域
3. 市街地西部地域
4. 菊川地域
5. 豊浦地域
6. 豊田地域
7. 豊北地域



乃木浜総合公園

本計画では、市域を7地域に分け、地域別の現況と課題、地域の施策を示します。

## 1. 市街地中心地域

### (1) 現況

#### ①土地利用・人口

- ・地域の大部分が市街化区域で、産業や交通等の都市機能が集積する地域です。臨海部に観光地や工業地、内陸部に住宅地が形成されています。
- ・人口は市全体の約67%を占めますが、わずかに減少傾向にあります。高齢化率は市平均と比べてやや低い値となっています。

#### ②公園・緑地

- ・人口一人あたりの都市公園面積は15.0㎡/人で市平均を上回りますが、人口一人あたりの施設緑地面積は19.3㎡/人で市平均を下回っています。
- ・都市公園、施設緑地ともに市内で最も数多く立地し、緑地面積も市内で最も広くなっています。



地域の位置図

		地域内合計	市全域に占める割合
箇所数	都市公園	317 箇所	80%
	都市公園以外の施設緑地	101 箇所	38%
	施設緑地合計 <sup>※1</sup>	415 箇所	63%
面積	施設緑地	359 ha	34%
	うち都市公園	280 ha	80%
	地域制緑地	2,996 ha	5%
	緑地合計 <sup>※2</sup>	3,245 ha	6%
		地域内	市全域
人口一人あたり面積	施設緑地	19.3 ㎡/人	38.4 ㎡/人
	うち都市公園	15.0 ㎡/人	12.6 ㎡/人
	地域制緑地	160.9 ㎡/人	1,983.1 ㎡/人
	緑地合計 <sup>※2</sup>	174.3 ㎡/人	1,998.1 ㎡/人

※1 施設緑地間の重複を除いた合計であるため、各項目の合計とは一致しない

※2 施設緑地と地域制緑地間の重複を除いた合計であるため、各項目の合計とは一致しない

出典：緑地箇所数・面積は平成26年4月現在、人口は平成26年4月住民基本台帳

#### ③市民アンケート

- ・既存の公園、街路樹の維持管理など緑の質の向上を望む意見が約82%を占めています。

## (2) 課題

- 市内の他地域と比べて、公園や緑地が高密度に集積し、街路樹による道路緑化も進んでいます。今後は、公共用地の緑化だけでなく、民有地の緑化を進め、市民の緑や自然に対する満足度を向上させていく必要があります。
- 整備後時間を経ることで、施設の老朽化や地域のニーズにあわない公園もあり、施設の維持・充実やリニューアルによる利便性向上が必要です。
- 都市計画決定後、長期間にわたって未整備となっている都市計画公園は本地域に集中しています。これらの公園の未着手区域では土地利用が制限された状況であり、廃止を含めた配置計画の見直しを行う必要があります。
- 風致地区の多くは、本地域に分布していますが、地区決定から70年以上が経過し、当初の目的と実情とが大きく異なっている地区も見られます。
- 点在する丘陵地は貴重なまとまった緑地であり、視覚的な緑を確保するため、市街地内からの視線に配慮して、緑を保全していく必要があります。
- 綾羅木川、砂子多川、壇貝川などの河川について、河川の水質や周辺景観の保全、親水空間の確保が必要です。



下関市市街地と関門橋

## (3) 地域の施策

施設緑地の数が最も多い地域ですが、その一方で既存の公園・街路樹の維持管理など質の向上を望む意見が多く、緑の新規整備から質の向上の方針転換を進めます。

また、風致地区は実情に応じた見直しを行います。

### ① 緑を活かす（質の向上・改善）

- 下関運動公園、金比羅公園、老の山公園や西山海水浴場は、地域住民の身近なレクリエーションの場として、施設の維持・充実、利便性向上に取り組めます。
- 火の山公園は、火の山公園山麓や展望台の整備、火の山ユースホステルのリニューアルを進め、集客力の向上を図ります。
- 未供用の長期未整備公園（珠数山公園、



老の山公園

幡生1号公園、楠乃公園、弟子待公園、筋山公園、丸尾公園など）について、廃止を含めた配置計画の見直しを検討します。

- ・下関運動公園、老の山公園、火の山公園等、指定緊急避難場所に指定されている公園の防災機能の向上を図ります。



下関運動公園

## ②緑を守る（緑の保全）

- ・壇之浦、日和山、武久海岸、綾羅木海岸風致地区は、居住者の意見や周辺環境の変化などを考慮して、代替方策や指定範囲の見直しを進めます。
- ・綾羅木川、砂子多川、壇貝川は、河川環境を保全、活用し、親水空間の創出を図ります。
- ・関門海峡に面するウォーターフロント部については、海峡の景観を活かした歩行空間の確保を図り、観光客と市民が憩い、賑わいの場となる水際空間の創出を図ります。
- ・長府や唐戸地区の歴史的まちなみに調和した緑化に取り組みます。
- ・火の山公園をはじめ、市街地内に点在する丘陵地の緑の保全に努め、緑への視線に配慮したまちづくりを促進します。
- ・綾羅木川周辺の優良農地などについては、農地の保全を図ります。
- ・火の山公園を含む瀬戸内海国立公園内の動植物や地形・景観などの自然環境の保全を推進します。



綾羅木川



長府地区



唐戸地区

③緑でやすらぐ（身近な緑）

- 長州出島は、事業の進捗にあわせて、公園・緑地の整備を行います。
- 下関駅周辺や唐戸などの密集市街地について、まちなか緑化推進事業等を活用したオープンスペースの確保による防災性の向上に努めます。
- 下関駅～唐戸、新下関駅周辺、長府などの市街地を中心に、壁面・屋上の緑化、ブロック塀の生け垣への改築、空き地や駐車場の修景等の民有地の緑化を促進します。
- 旧山陽道や中国自然歩道、夢街道ルネサンス、日本風景街道と連携し、ウォーキングルートやサイクリングルートの整備や緑を楽しむことのできる場の創出などを推進します。



壇具川

④緑を支える（市民・企業の参加・協働）

- 国道9号では、沿道の事業所やボランティアによる花壇づくりが行われています。市民・企業の参加・協働による緑づくりを、緑の拠点を中心に広げていきます。
- 環境学習や緑に関する情報発信、緑化団体の活動拠点として、しものせき市民活動センターなどの活用を検討します。



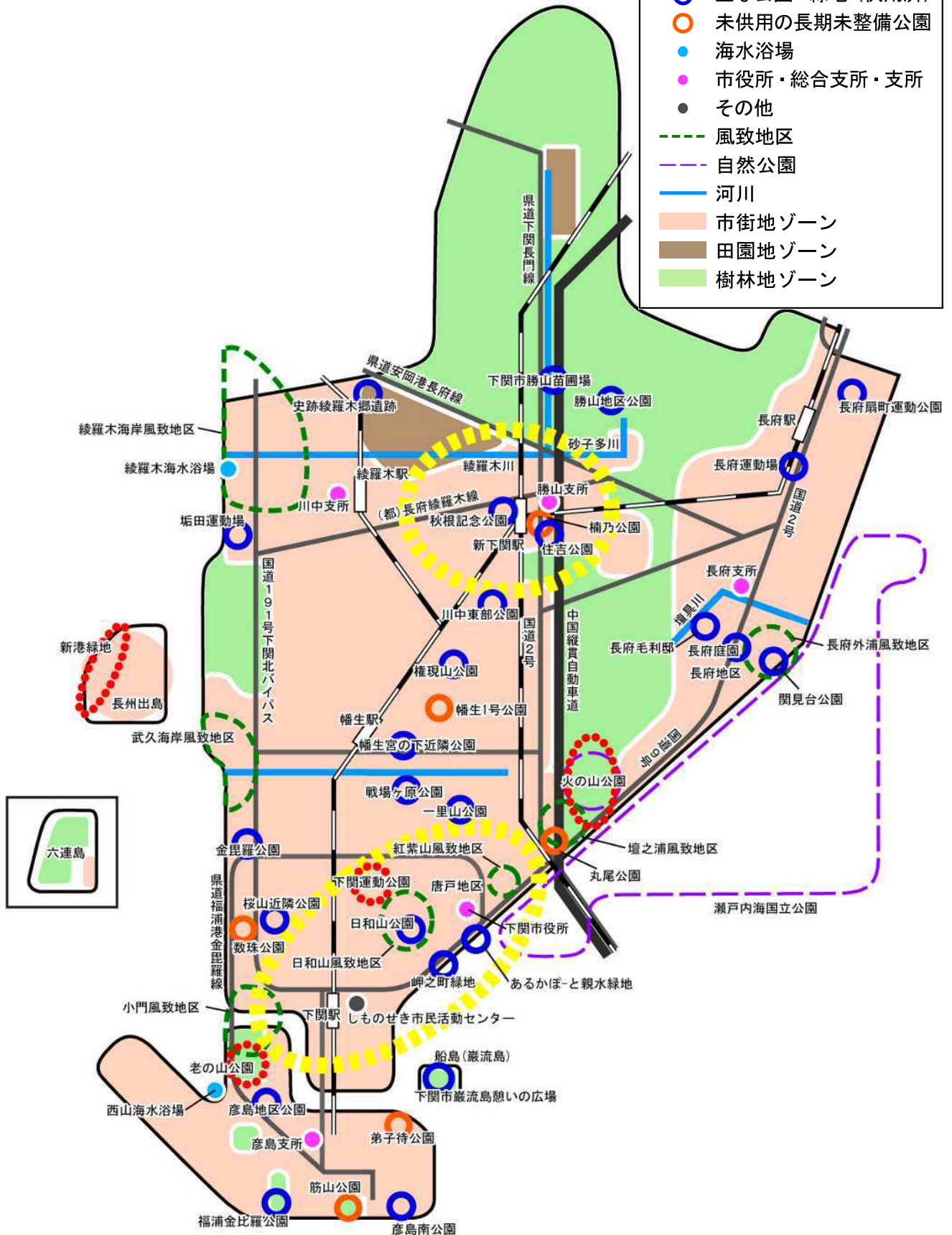
国道9号のボランティアによる花壇



国道9号

●市街地中心地域

凡例	
	地域の拠点
	拠点となる公園・緑地
	主な公園・緑地（供用済）
	未供用の長期未整備公園
	海水浴場
	市役所・総合支所・支所
	その他
	風致地区
	自然公園
	河川
	市街地ゾーン
	田園地ゾーン
	樹林地ゾーン



## 2. 市街地東部地域

### (1) 現況

#### ①土地利用・人口

- ・地域北部は山地、南部は周防灘の海岸線に面し農地が広がっています。国道491号に沿って市街地が形成されています。
- ・市街地拡大や既存集落での宅地開発が進んでいるため、市内で唯一人口が増加している地域で、高齢化率も市全体と比べてやや低い状況です。

#### ②公園・緑地

- ・人口一人あたりの都市公園面積7.7㎡/人、人口一人あたりの施設緑地面積14.2㎡/人であり、いずれも市平均を下回っています。
- ・乃木浜総合公園、木屋川ラブリバーパーク等の大規模な公園も点在するものの、公園緑地の大部分は0.1ha未満の小規模な街区公園となっています。



地域の位置図

		地域内合計	市全域に占める割合
箇所数	都市公園	53 箇所	13%
	都市公園以外の施設緑地	21 箇所	8%
	施設緑地合計	74 箇所	11%
面積	施設緑地	37 ha	3%
	うち都市公園	20 ha	6%
	地域制緑地	4,833 ha	9%
	緑地合計*	4,867 ha	9%
		地域内	市全域
人口一人あたり面積	施設緑地	14.2 ㎡/人	38.4 ㎡/人
	うち都市公園	7.7 ㎡/人	12.6 ㎡/人
	地域制緑地	1,855.3 ㎡/人	1,983.1 ㎡/人
	緑地合計*	1,868.4 ㎡/人	1,998.1 ㎡/人

※ 施設緑地と地域制緑地間の重複を除いた合計であるため、各項目の合計とは一致しない

出典：緑地箇所数・面積は平成26年4月現在、人口は平成26年4月住民基本台帳

#### ③市民アンケート

- ・緑が減少したと回答した人の割合が約52%で、市内で最も高くなっています。

## (2) 課題

- 人口が増加傾向にあり、緑の減少が指摘されています。市街地周辺の農地や山地への無秩序な市街地の拡大を抑制する必要があります。
- 地域の日常生活の中心となる小月駅や小月支所周辺、主要幹線である国道491号沿道は、生け垣や街路樹等の緑に乏しく、地域の顔にふさわしい緑の創出が必要です。
- 数多くの河川が流れる地域であり、河川の水質や周辺景観の保全、親水空間の確保が必要です。
- 周防灘沿岸に広がる干潟とその生態系は、貴重な自然として保全と活用を両立させていく必要があります。



国道491号沿道

## (3) 地域の施策

人口一人あたりの都市公園や施設緑地の面積が低く、市民アンケートでも緑の減少が実感されています。そのため、都市公園の整備や地域内の緑の確保を重視していきます。

### ① 緑を活かす（質の向上・改善）

- 木屋川ラブリバーパークは、花見など市民に身近なレクリエーション空間として、施設の維持・充実、利便性の向上に努めます。
- 小月支所前の小月本町通など、街路樹のある道路については、沿道住民や事業所の街路樹への理解の促進、落ち葉清掃の支援や剪定時期の調整等に取り組みます。
- 避難場所に指定されている小月公園、木屋川ラブリバーパークなどの防災機能の向上に努めます。



木屋川ラブリバーパーク



小月本町通



## ②緑を守る（緑の保全）

- 神田川、木屋川などの河川は、水質向上とともに、親水空間の創出を図ります。
- 穴田堤などの水辺周辺におけるポケットパークの整備を図ります。
- 周防灘沿岸に広がる干潟とその生態系を保全するとともに、海岸景観や鳥類などを楽しむことのできる場の創出について検討します。
- 旧山陽道の町並みなどの歴史資源を活かし、ウォーキングルートの整備や緑と触れ合える場の創出について検討します。
- 地域景観の背景となる四王司山への視線の配慮など、市街地の背景となる山並み景観の保全を進めます。
- 農地については、農用区域の継続、休耕田における景観作物の育成など、木屋川や神田川などの河川と田畑が一体となった田園景観の保全・創出を進めます。

## ③緑でやすらぐ（身近な緑）

- 乃木浜総合公園は、市民の身近な公園として、多目的広場や子ども広場等を整備し、14.8haを供用しています。今後は、山陽地区のスポーツ活動の拠点として、野球場やテニスコートなどスポーツ活動を行う施設の整備に取り組み、スポーツ振興を図るとともに、総合公園として幅広い機能を提供できるよう、供用エリアとの整合を図った整備を進めます。
- 主要な幹線道路である国道491号沿道などについて、商業施設など私有地の緑化を促します。
- 小月駅や小月支所周辺は、緑の拠点として、生け垣整備や駐車場や空き地の修景等、私有地の緑化を促進します。



乃木浜総合公園親水池

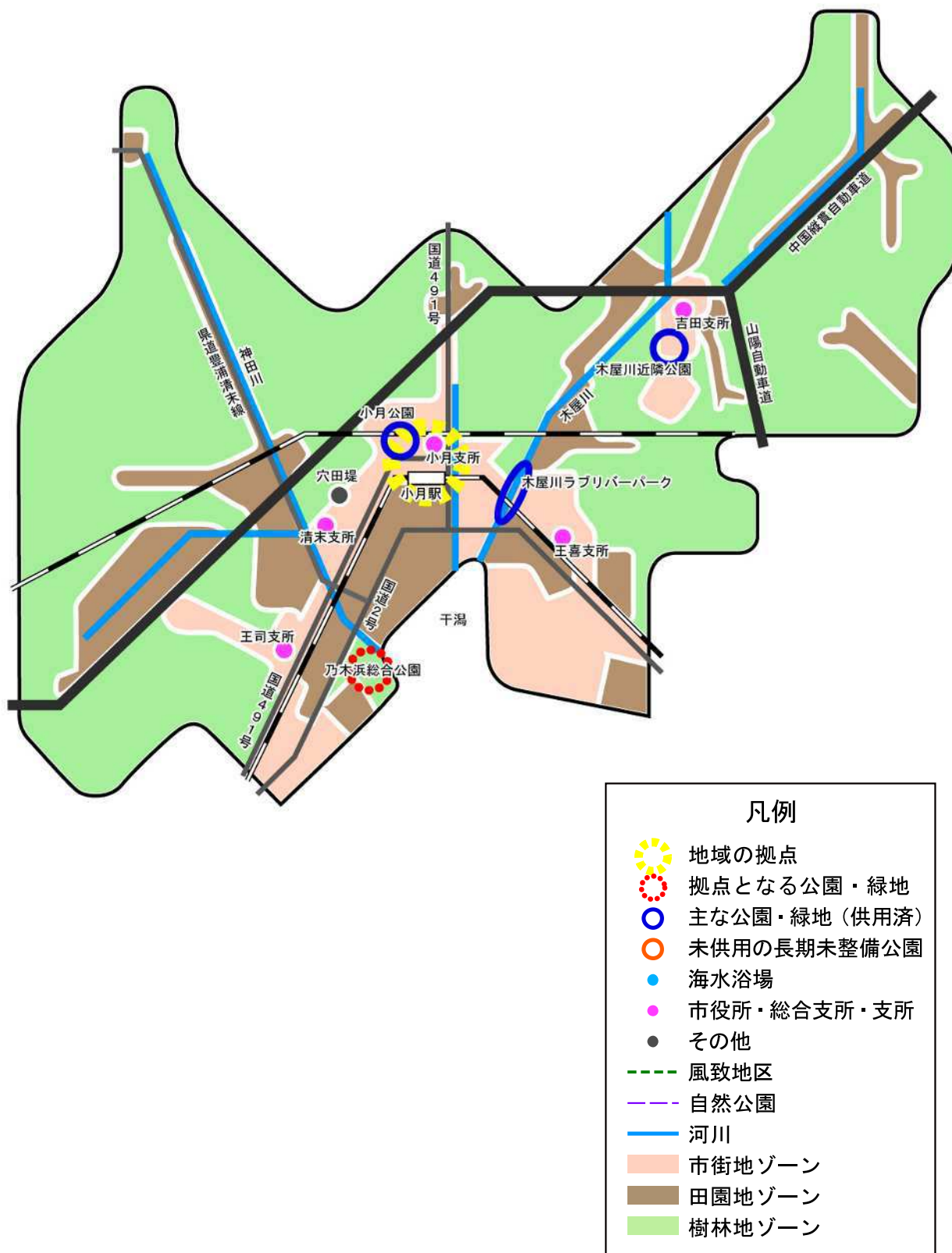
## ④緑を支える（市民・企業の参加・協働）

- 小月駅や小月支所の周辺、国道491号沿道などについて、地域内の住民や企業が管理する花壇スペースを設置するなど、市民・企業の参加・協働による緑づくりを進めます。



小月駅周辺

●市街地東部地域



### 3. 市街地西部地域

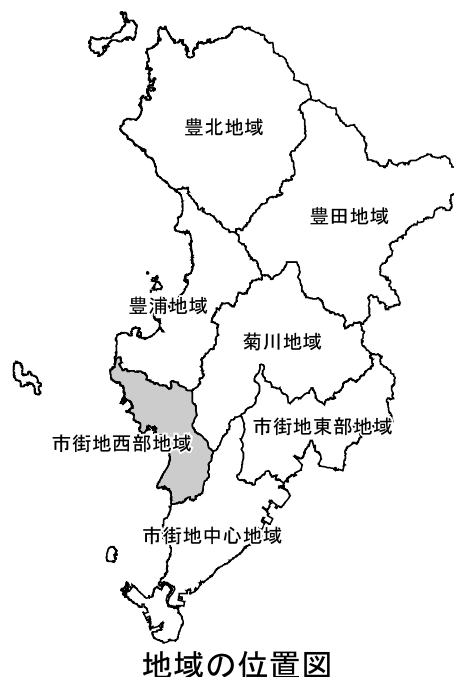
#### (1) 現況

##### ①土地利用・人口

- ・北東部の山々が海岸線近くまで連なり、海岸沿いに残る平坦部に市街地が形成されています。
- ・人口はわずかに減少傾向にあります。高齢化率も市平均とほぼ同じ割合となっています。

##### ②公園・緑地

- ・人口一人あたりの都市公園面積は10.5㎡/人で市平均を下回りますが、人口一人あたりの施設緑地面積は137.8㎡/人と市平均を大きく上回っています。
- ・敷地面積が250haである深坂自然の森があるため、施設緑地の面積が広がっています。その他の公園・緑地の大部分は、0.1ha未満の小規模な街区公園となっています。



		地域内合計	市全域に占める割合
箇所数	都市公園	24 箇所	6%
	都市公園以外の施設緑地	12 箇所	4%
	施設緑地合計	36 箇所	5%
面積	施設緑地	283 ha	27%
	うち都市公園	22 ha	6%
	地域制緑地	2,956 ha	5%
	緑地合計*	3,003 ha	5%
		地域内	市全域
人口一人あたり面積	施設緑地	137.8 ㎡/人	38.4 ㎡/人
	うち都市公園	10.5 ㎡/人	12.6 ㎡/人
	地域制緑地	1,440.3 ㎡/人	1,983.1 ㎡/人
	緑地合計*	1,462.8 ㎡/人	1,998.1 ㎡/人

※ 施設緑地と地域制緑地間の重複を除いた合計であるため、各項目の合計とは一致しない

出典：緑地箇所数・面積は平成26年4月現在、人口は平成26年4月住民基本台帳

##### ③市民アンケート

- ・既存の公園、街路樹の維持管理など緑の質の向上を望む意見が約82%を占めています。
- ・今後、緑化活動を実践したいの人の割合が91%と高くなっています。

(2) 課題

- ・地域の日常生活の中心となる安岡駅や安岡支所周辺、国道191号沿道は、生け垣や街路樹等の緑に乏しく、地域の顔にふさわしい緑の創出が必要です。
- ・友田川などの河川について、河川の水質や周辺景観の保全、親水空間の確保が必要です。
- ・美しい海岸線や山並み、河川などの自然景観などの保全とレクリエーションの場としての活用が必要です。
- ・綾羅木海岸風致地区は、当初の目的と実情とが大きく異なっています。



国道191号の商業施設  
(安岡駅前1丁目付近)

(3) 地域の施策

緑の質的向上を望む意見が多いことから、地域の実情に応じて公園のリニューアルを進めるとともに、市民の緑化への意欲を実際の活動につなげるための支援を行います。

また、風致地区は実情に応じた見直しを行います。

緑を活かす(質の向上・改善)

- ・下関北運動公園や深坂自然の森などは、市民のレクリエーションの場として、施設の充実、利便性の向上に努めます。
- ・指定緊急避難場所に指定されている下関北運動公園、安岡地区公園の防災機能の向上に努めます。

緑を守る(緑の保全)

- ・綾羅木海岸風致地区は、住宅地の拡大等により、自然的景観が消滅したエリアがあるため、代替方策や指定範囲の見直しを進めます。
- ・友田川は、河川環境を保全、活用し、親水空間の創出を図ります。
- ・吉母海岸を中心に、ハマユウや砂浜などの海岸景観の保全や魅力の向上に努めます。



綾羅木海岸風致地区

- ・農林水産省のため池百選に選定された土木遺産である深坂溜池と深坂自然の森を、歴史と自然の交流拠点としての活用を進めます。
- ・地域景観の背景となる竜王山などへの視線の配慮など、市街地の背景となる山並みの保全を進めます。
- ・県道安岡港長府線や西田川沿いなどの農地などについては、農用区域の継続、休耕田における景観作物の育成など、河川と田畑が一体となった田園景観の保全・創出を進めます。



深坂溜池

#### 緑でやすらぐ（身近な緑）

- ・深坂溜池や竜王山などを巡る中国自然歩道や夢街道ルネサンス、日本風景街道と連携し、ルート維持・保全や緑を楽しむことのできる場の創出などを進めます。
- ・安岡駅周辺は、緑の拠点として、既存の県営団地の豊かな緑を維持・保全するとともに、住宅や国道191号沿道の商業施設の生け垣整備等、民有地の緑化を促進します。

#### 緑を支える（市民・企業の参加・協働）

- ・拠点となる安岡駅周辺や国道191号沿道などについて、地域内の住民や企業が管理する花壇スペースを設置するなど、市民・企業の参加・協働による緑づくりを進めます。
- ・下関市園芸センターは、園芸相談や講習会の実施、緑化活動団体などを通して緑に関する情報発信を進めます。



安岡駅前県営住宅の緑化

市街地西部地域



## 4. 菊川地域

### (1) 現況

#### 土地利用・人口

- ・周囲を山々に囲まれ、中央部に広がる盆地に広大な農地や市街地が広がっています。
- ・人口はわずかに減少傾向にあり、高齢化率は市平均とほぼ同じ割合となっています。

#### 公園・緑地

- ・人口一人あたりの施設緑地面積は27.6㎡/人で市平均を下回っています。
- ・0.1ha未満の小規模な団地内公園や児童公園などが点在しています。また、木屋川や田部川沿いには、チャレンジパーク、遊一遊一広場といった1haを超える河川公園が整備されています。



地域の位置図

		地域内合計	市全域に占める割合
箇所数	施設緑地	29 箇所	4%
面積	施設緑地	26 ha	2%
	地域制緑地	9,692 ha	18%
	緑地合計	9,709 ha	18%
		地域内	市全域
人口一人あたり面積	施設緑地	27.6 ㎡/人	38.4 ㎡/人
	地域制緑地	10,398.0 ㎡/人	1,983.1 ㎡/人
	緑地合計	10,416.0 ㎡/人	1,998.1 ㎡/人

施設緑地と地域制緑地間の重複を除いた合計であるため、各項目の合計とは一致しない

出典：緑地箇所数・面積は平成26年4月現在、人口は平成26年4月住民基本台帳

#### 市民アンケート

- ・特に大事にすべき緑として、河川・ため池など水辺の緑を重視する人が最も多くなっています。
- ・遊具などの公園施設が少ないとの意見が約3割で他地域より多くなっています。

## (2) 課題

- 地域の日常生活の中心となる菊川総合支所周辺は、道路幅員が狭く、街路樹もないため、地域の顔にふさわしい緑の創出が必要です。
- 国道491号などの幹線道路沿いの緑に乏しく、沿道の商業施設については、緑化を促進する必要があります。
- 身近な公園には遊具などの公園施設が少ないため、施設の充実等による利便性向上を図る必要があります。
- 木屋川や田部川など、盆地内を流れる河川について、河川の水質や周辺景観の保全、親水空間の確保が必要です。



国道491号沿道

## (3) 地域の施策

公園施設の充実を望む声が多いことから、維持・管理及び施設の充実を進めます。

また、市内の貴重な水辺空間を大切にしている市民が多いことから、地域のシンボルとして河川を保全・活用していきます。

### ① 緑を活かす（質の向上・改善）

- 菊川自然活用村はホタル観賞などの自然体験型のレクリエーション空間として、施設の維持・充実、利便性の向上に努めます。
- 指定緊急避難場所に指定されている菊川運動公園の防災機能の向上に努めます。



菊川運動公園

### ② 緑を守る（緑の保全）

- 歌野川など、ホタルの生息する貴重な河川環境を保全しつつ、ホタル観賞などのレクリエーション空間としての活用や親水空間の創出を図ります。
- 地域景観の背景となる盆地周辺の山地への視線の配慮など、市街地の背景となる山並み景観の保全を進めます。
- 盆地に広がる農地について、農用地区域の継続、休耕田における景観作物の育成など、



木屋川沿いの田園風景



木屋川や田部川などの河川と田畑が一体となった田園景観の保全・創出を進めます。

③緑でやすらぐ（身近な緑）

- 利用者特性やアクセス性、周辺の状態等を考慮し、既存の公園の都市公園への再編による公園施設の充実を検討します。
- 主要な幹線道路である国道491号沿道などについて、商業施設など民有地の緑化を促します。
- 菊川総合支所周辺は、緑の拠点として、総合支所内の緑化、庭木や生け垣による民有地の緑化等を促進し、水路を活かした親水空間の創出を図ります。

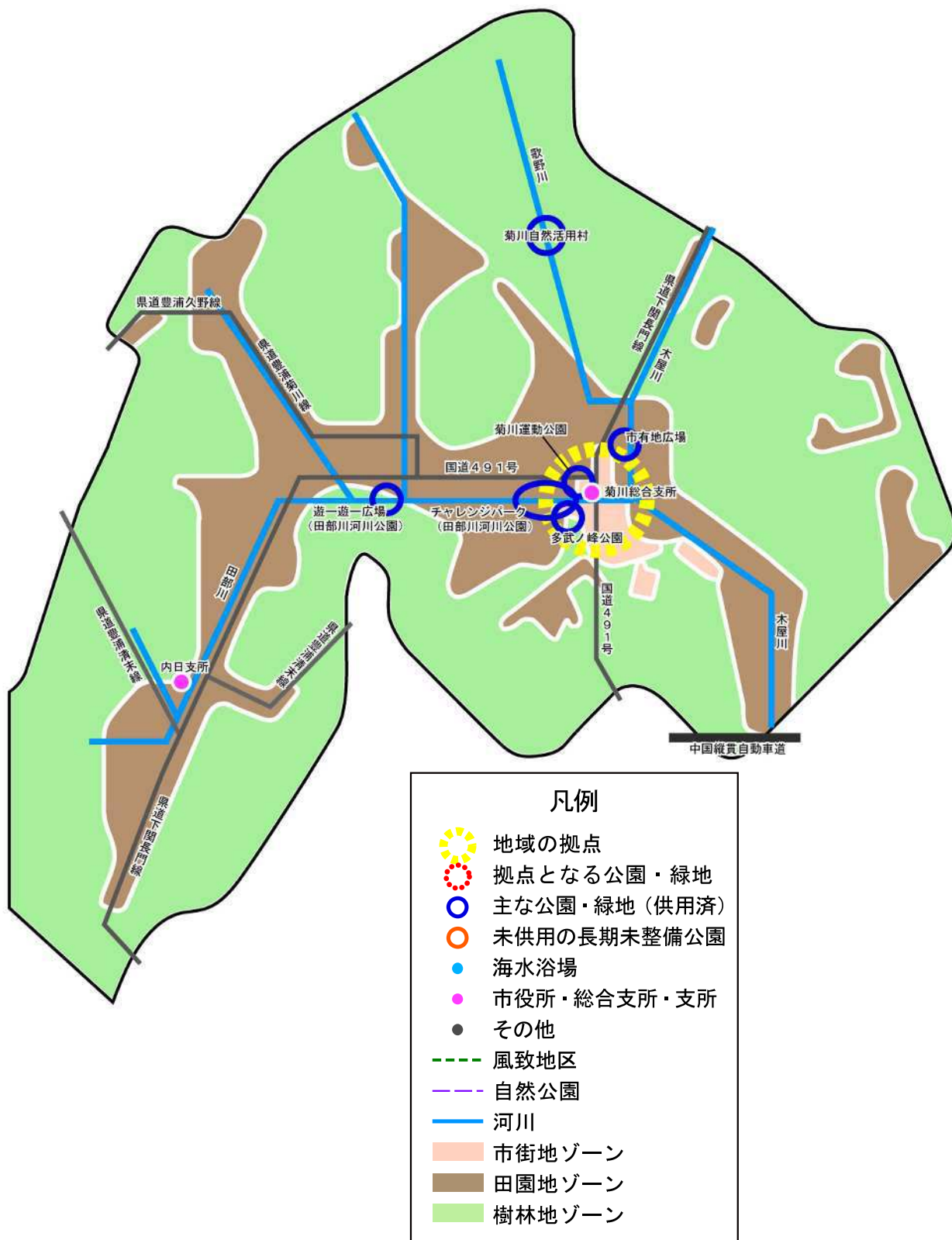
④緑を支える（市民・企業の参加・協働）

- 菊川総合支所の周辺、国道491号沿道などについて、地域内の住民や企業が管理する花壇スペースを設置するなど、市民・企業の参加・協働による緑づくりを進めます。



下関市菊川ふれあい会館（アブニール）  
（新庁舎建設予定地周辺）

●菊川地域



## 5. 豊浦地域

### (1) 現況

#### ①土地利用・人口

- ・JR山陰本線に沿って、川棚温泉駅から小串駅の周辺に、まとまった市街地が形成されています。北部は山々が連なり、南部には緩やかな斜面地に農村集落が広がっています。
- ・人口はわずかに減少傾向にあり、高齢化率は市平均より高い割合となっています。

#### ②公園・緑地

- ・人口一人あたりの都市公園面積14.9㎡/人、人口一人あたりの施設緑地面積59.0㎡/人であり、いずれも市平均を上回っています。
- ・0.1ha未満の小規模な団地内公園や児童遊園が数多く整備されています。都市公園は地区公園が2箇所、総合公園が1箇所と数は少ないですが、規模の大きな公園が整備されています。



地域の位置図

		地域内合計	市全域に占める割合
箇所数	都市公園	3 箇所	1%
	都市公園以外の施設緑地	57 箇所	21%
	施設緑地合計	60 箇所	9%
面積	施設緑地	108 ha	10%
	うち都市公園	27 ha	8%
	地域制緑地	5,766 ha	11%
	緑地合計 <sup>※</sup>	5,798 ha	11%
		地域内	市全域
人口一人あたり面積	施設緑地	59.0 ㎡/人	38.4 ㎡/人
	うち都市公園	14.9 ㎡/人	12.6 ㎡/人
	地域制緑地	3,153.6 ㎡/人	1,983.1 ㎡/人
	緑地合計 <sup>※</sup>	3,171.4 ㎡/人	1,998.1 ㎡/人

※ 施設緑地と地域制緑地間の重複を除いた合計であるため、各項目の合計とは一致しない

出典：緑地箇所数・面積は平成26年4月現在、人口は平成26年4月住民基本台帳

#### ③市民アンケート

- ・今後の緑の充実への取り組みとして、住宅や企業など民間地での緑の充実を重視すべきが約29%で他地域よりも高くなっています。

## (2) 課題

- 地域の日常生活の中心、観光の窓口となる豊浦総合支所や川棚温泉駅周辺では、街路樹や沿道の商業施設の緑化は少なく、地域の顔にふさわしい緑の創出が必要です。
- 川棚川などの河川について、河川の水質や周辺景観の保全、親水空間の確保が必要です。
- 響灘の美しい海岸線、川棚温泉、川棚のクスの森、リフレッシュパーク豊浦など、自然景観などの保全と観光資源として活用が必要です。



響灘の海岸線  
(響灘・厚島展望公園より)

## (3) 地域の施策

川棚温泉や川棚のクスの森をはじめとして、観光資源が豊富であることから、市民生活とともに、観光振興に資する緑の保全・創出を進めます。

また、民間地の緑の充実を求める意見が多く、民間の緑化活動を支援していきます。

### ① 緑を活かす（質の向上・改善）

- 国見台森林公園、夢ヶ丘公園、小串後浜海水浴場周辺等は、市民のレクリエーションの場として、施設の維持・充実、利便性の向上に努めます。
- 指定緊急避難場所に指定されている豊洋運動公園、夢ヶ丘公園、リフレッシュパーク豊浦の防災機能の向上に努めます。



リフレッシュパーク豊浦

### ② 緑を守る（緑の保全）

- 川棚川は、河川環境の保全と活用を図りつつ、親水空間の確保を図ります。
- 室津や小串の海水浴場を中心として、観光資源である砂浜の環境や海岸景観の保全と魅力の向上に努めます。
- 地域景観の背景となる地域東部の山地への視線の配慮など、市街地の背景となる山並みの保全を進めます。



豊浦町小串付近の海岸線

③緑でやすらぐ（身近な緑）

- 川棚温泉駅、川棚温泉、川棚のクスの森及びリフレッシュパーク豊浦をつなぐ道路は、観光客が自然を楽しむことのできるウォーキングルートや休憩スポットなどの創出を進めます。
- 竜王山、川棚温泉などを巡る中国自然歩道や夢街道ルネサンス、日本風景街道と連携し、ルートの維持・保全や緑を楽しむことのできる場の創出を推進します。
- 豊浦総合支所周辺は、緑の拠点として、川棚温泉駅や総合支所内の緑化、庭木や生け垣による民有地の緑化等を促進します。



川棚のクスの森

出典：下関市ホームページ



豊浦総合支所周辺

④緑を支える（市民・企業の参加・協働）

- 川棚温泉駅と総合支所を結ぶ県道豊浦久野線などでは、沿道企業参加型の寄せ植え（花いっぱい運動）や市民によるコスモスの植え付けが行われています。市民・企業の参加・協働による緑づくりを拠点周辺に広がっていきます。
- 国見台森林公園など、地域内の豊かな自然環境を活かした環境学習の核として活用を進めます。

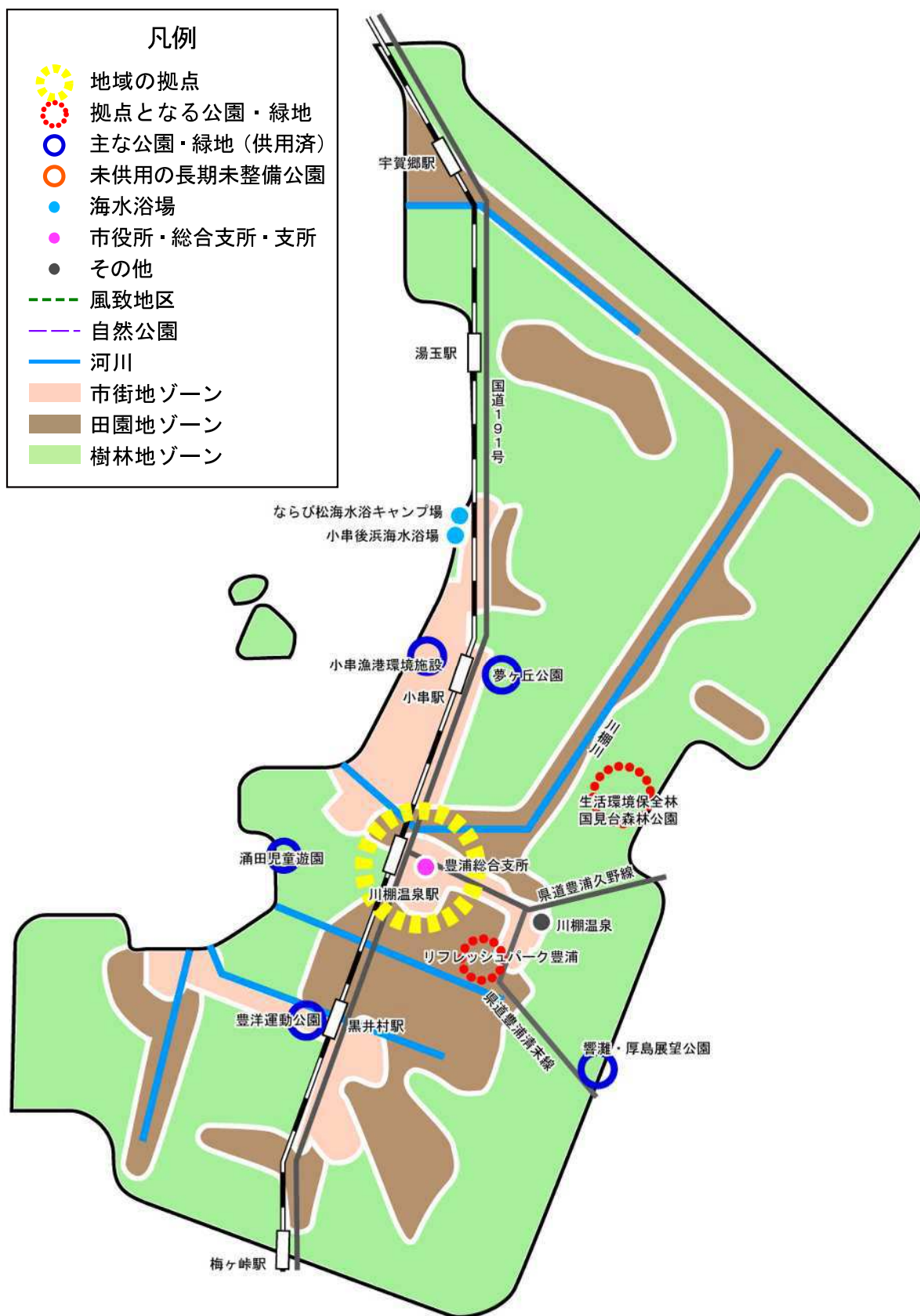


花いっぱい運動  
（県道豊浦久野線）



地元住民によるコスモスの植付け  
（豊浦町川棚北村付近）

●豊浦地域



## 6. 豊田地域

### (1) 現況

#### ①土地利用・人口

- ・緑豊かな山々が連なる、自然環境に恵まれた地域です。地域の中心部にまとまった市街地が形成され、河川沿いに農地が広がっています。
- ・人口は年々大きく減少し、高齢化率も36%と市内で2番目に高く、地域の過疎化が進んでいます。
- ・過疎化の進展や高齢化により、耕作放棄地が増えつつあります。



地域の位置図

#### ②公園・緑地

- ・豊田地域に都市公園は立地しておらず、人口一人あたりの施設緑地面積は223.7㎡/人で市平均を大きく上回っています。
- ・清らかな河川が多く、ホタルの生息地が存在していることから、ホタルの里ミュージアムなど、ホタルをテーマにした観光施設が見られます。
- ・豊田農業公園みのりの丘や豊田湖畔公園など、豊かな自然を活かした大規模なレクリエーション施設が立地しています。

		地域内合計	市全域に占める割合
箇所数	施設緑地	20 箇所	3%
面積	施設緑地	129 ha	12%
	地域制緑地	14,410 ha	26%
	緑地合計*	14,418 ha	26%
		地域内	市全域
人口一人あたり面積	施設緑地	223.7 ㎡/人	38.4 ㎡/人
	地域制緑地	25,018.0 ㎡/人	1,983.1 ㎡/人
	緑地合計*	25,031.0 ㎡/人	1,998.1 ㎡/人

※ 施設緑地と地域制緑地間の重複を除いた合計であるため、各項目の合計とは一致しない  
 出典：緑地箇所数・面積は平成26年4月現在、人口は平成26年4月住民基本台帳

#### ③市民アンケート

- ・住まい周辺の緑への満足度が極めて高く、約85%の人が満足と回答しています。
- ・特に大事にすべき緑として、農地の緑や史跡・天然記念物などの希少性の高い緑を重視する人が多くなっています。

## (2) 課題

- 地域の日常生活の中心となる豊田総合支所周辺は、道路幅員が狭く、街路樹もないため、地域の顔にふさわしい緑の創出が必要です。
- 豊田農業公園みのりの丘や豊田湖畔公園などの自然を活かした公園を自然レクリエーションの拠点として活用していく必要があります。
- 木屋川、栗野川などの河川について、ホタルが生息できる環境や水質、水辺景観の保全とともに、親水空間の確保が必要です。
- 県立豊田自然公園に指定されている狗留孫山や豊田湖周辺の豊かな自然環境の保全・活用が必要です。
- 盆地に広がる農地について、過疎化等ともなう耕作放棄地の対策が必要です。



豊田湖

## (3) 地域の施策

既存の緑への満足度が高いことから、河川や豊田湖、山地などの地域を代表する自然について、保全と点在する自然レクリエーションの拠点の充実を重視していきます。

### ① 緑を活かす（質の向上・改善）

- 豊田農業公園みのりの丘や豊田湖畔公園など、滞在型・体験型のレクリエーション拠点として、施設の維持・充実、利便性の向上に努めます。
- 指定緊急避難場所に指定されている豊田農業公園みのりの丘の防災機能の向上に努めます。



豊田農業公園みのりの丘

### ② 緑を守る（緑の保全）

- ゲンジボタル発生地として国の天然記念物に指定された木屋川や豊田湖などの、貴重な水辺環境を保全するとともに、ホタル観賞などのレクリエーション空間としての活用や親水空間の創出を進めます。
- 天井ヶ岳や白滝山など、地域景観の背景となる盆地周辺の山地への視線の配慮など、市街地の背景となる山並み景観の保全を進めま



木屋川



す。

- 盆地に広がる農地について、農用区域の継続、休耕田における景観作物の育成など、木屋川や栗野川などの河川と田畑が一体となった田園景観の保全・創出を進めます。
- 豊田農業公園みのりの丘などを活かした農業体験、農作物直売など、農業とのふれあいの機会の増加について検討します。
- 豊田湖や狗留孫山周辺の豊田県立自然公園内の動植物や地形・景観などの自然環境の保全を推進します。



木屋川周辺の田園風景

### ③緑でやすらぐ（身近な緑）

- 狗留孫山、華山、豊田湖などを巡る中国自然歩道や夢街道ルネサンス、日本風景街道と連携し、ウォーキングルートの維持・保全や緑を楽しむことのできる場の創出などを推進します。
- 豊田総合支所周辺は、緑の拠点として、総合支所内の緑化、庭木や生け垣による民有地の緑化等を促進し、水路などを活かした親水空間の創出を図ります。



豊田総合支所



豊田総合支所周辺

### ④緑を支える（市民・企業の参加・協働）

- 県道下関長門線沿道では、既に地域内の住民による花壇が作られています。市民・企業の参加・協働による緑づくりを拠点である豊田総合支所周辺などに広げていきます。
- 道の駅堂街道西ノ市、ホテルの里ミュージアム、豊田農業公園みのりの丘、豊田湖畔公園など、地域内の豊かな自然環境を活かした環境学習の核として活用を進めます。



県道下関長門線沿道での地域の緑化活動

●豊田地域



## 7. 豊北地域

### (1) 現況

#### ①土地利用・人口

- ・緑豊かな山々や、美しい景観を有する海岸を有し、自然環境に恵まれた地域です。地域の中心部には、まとまった市街地が形成され、海岸沿いに漁村集落が点在しています。
- ・人口は減少傾向が著しく、高齢化率も約43%と市内で最も高い値を示しています。
- ・過疎化の進展や高齢化により、耕作放棄地が増えつつあります。



地域の位置図

#### ②公園・緑地

- ・豊北地域に都市公園は立地しておらず、人口一人あたりの施設緑地面積は118.9㎡/人で市平均を大きく上回っています。
- ・城山自然の森、大浦岳森林公園、牧崎風の公園など、山や海岸などの豊かな自然を活かした大規模なレクリエーション施設が立地しています。

		地域内合計	市全域に占める割合
箇所数	施設緑地	28 箇所	4%
	施設緑地	121 ha	11%
面積	地域制緑地	14,150 ha	26%
	緑地合計 <sup>※</sup>	14,177 ha	26%
		地域内	市全域
人口一人あたり面積	施設緑地	118.9 ㎡/人	38.4 ㎡/人
	地域制緑地	13,865.4 ㎡/人	1,983.1 ㎡/人
	緑地合計 <sup>※</sup>	13,892.0 ㎡/人	1,998.1 ㎡/人

※ 施設緑地と地域制緑地間の重複を除いた合計であるため、各項目の合計とは一致しない

出典：緑地箇所数・面積は平成26年4月現在、人口は平成26年4月住民基本台帳

#### ③市民アンケート

- ・既存の公園、街路樹の維持管理など緑の質の向上を望む意見が約86%を占めています。

## (2) 課題

- ・地域の日常生活の中心となる豊北総合支所周辺は、街路樹や沿道の商業施設の緑化はなく、地域の顔にふさわしい緑の創出が必要です。
- ・城山自然の森、大浦岳森林公園などの自然を活かした公園を自然レクリエーション拠点として活用していく必要があります。
- ・栗野川などの河川について、河川の水質や周辺景観の保全、親水空間の確保が必要です。
- ・美しい海岸線をはじめとした山並みや河川などの自然景観などの保全と観光資源としての活用が必要です。
- ・農地について、過疎化等ともなう耕作放棄地の対策が必要です。



豊北総合支所付近



栗野川

## (3) 地域の施策

角島や土井ヶ浜海水浴場など、自然を活用した観光資源が豊富であることから、市民生活とともに、観光振興に資する緑の保全・創出を進めます。  
また、既存の公園の質の向上に努めます。

### ① 緑を活かす（質の向上・改善）

- ・大浦岳森林公園、豊北総合運動公園、栗野川河川公園、阿川ほうせんぐり海浜公園などは、市民の憩いの空間となるレクリエーション拠点として、施設の維持・充実、利便性の向上に努めます。
- ・指定緊急避難場所に指定されている豊北総合運動公園、阿川ほうせんぐり海浜公園の防災機能の向上に努めます。



土井ヶ浜海水浴場

出典：環境省日本の快水浴場百選 HP

### ② 緑を守る（緑の保全）

- ・青のり・鮎・しろうお漁の盛んな栗野川は、河川環境の保全と活用を図りつつ、親水空間の創出を図ります。

- 角島・角島大橋、土井ヶ浜海水浴場周辺から島戸海水浴場にかけてのエリアは、市の観光の拠点として観光資源である砂浜の環境や海岸景観の保全と魅力の向上に努めます。
- 周辺の自然環境も含め、土井ヶ浜遺跡を保全するとともに、歴史を活かした観光資源としての活用を進めます。
- 地域景観の背景となる白滝山などの地域東部の山地への視線の配慮など、市街地の背景となる山並みの保全を進めます。
- 盆地に広がる農地について、農用地区域の継続、休耕田における景観作物の育成など田園景観の保全・創出を進めます。
- 道の駅北浦街道豊北などを活かした農業体験、農作物直売など、農業とのふれあいの機会の増加について検討します。
- 角島を含む北長門海岸国定公園内の動植物や地形・景観などの自然環境の保全を推進します。



角島大橋と角島

出典：やまぐち風景づくり特選

### ③緑でやすらぐ（身近な緑）

- 豊北総合支所周辺は、緑の拠点として、総合支所内の緑化、庭木や生け垣による民有地の緑化等を促進します。

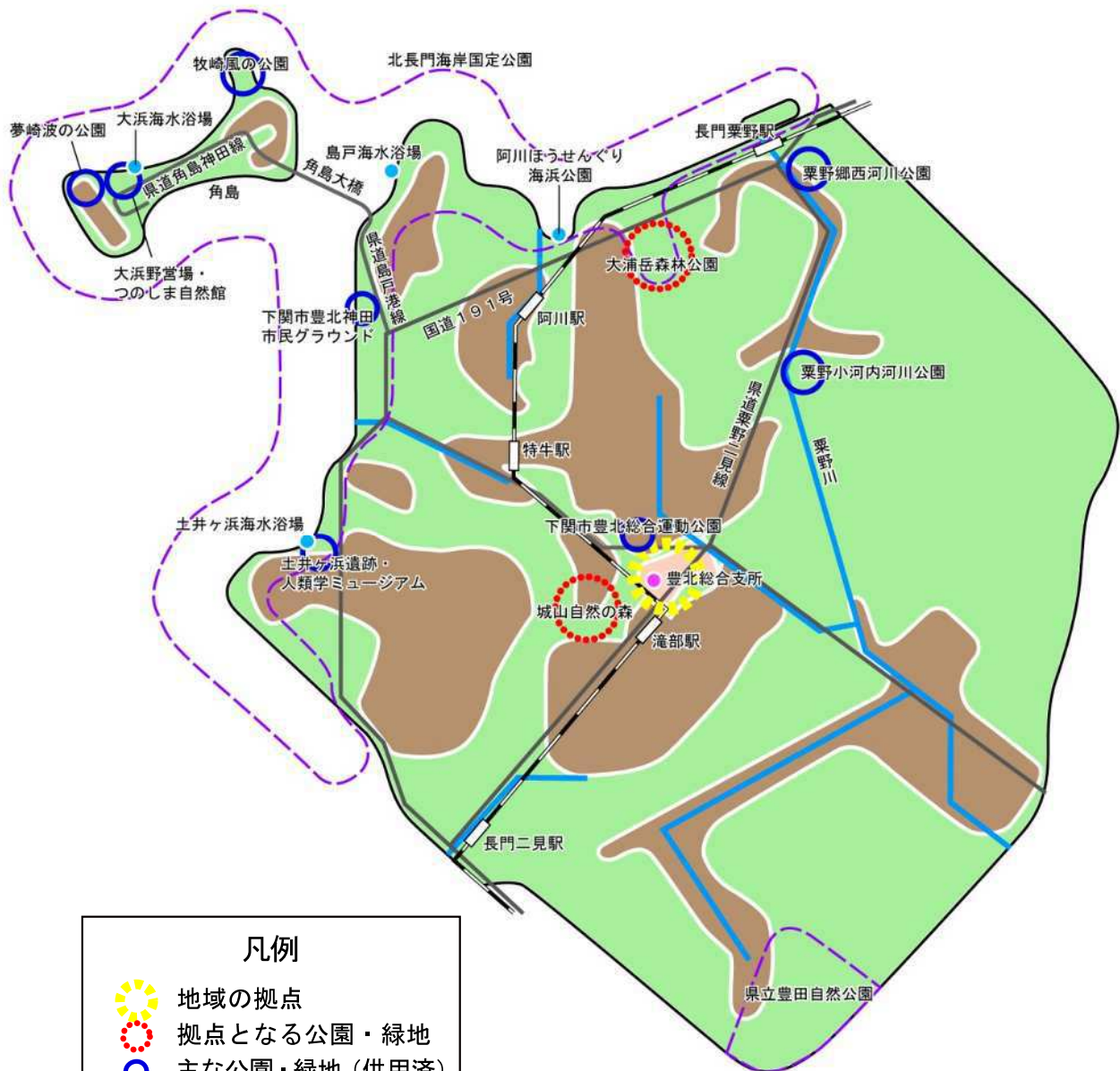
### ④緑を支える（市民・企業の参加・協働）

- 豊北総合支所の周辺や国道191号沿道などについて、地域内の住民や企業が管理する花壇スペースを設置するなど、市民・企業の参加・協働による緑づくりを進めます。



国道191号沿いの花壇  
（豊北町大字神田上付近）

●豊北地域



凡例	
	地域の拠点
	拠点となる公園・緑地
	主な公園・緑地（供用済）
	未供用の長期未整備公園
	海水浴場
	市役所・総合支所・支所
	その他
	風致地区
	自然公園
	河川
	市街地ゾーン
	田園地ゾーン
	樹林地ゾーン